

# 経済・金融 フラッシュ

## 中国経済：4月の経済指標 ～失速懸念は薄れるも、上向き確証は得られず

経済研究部 上席研究員 三尾 幸吉郎

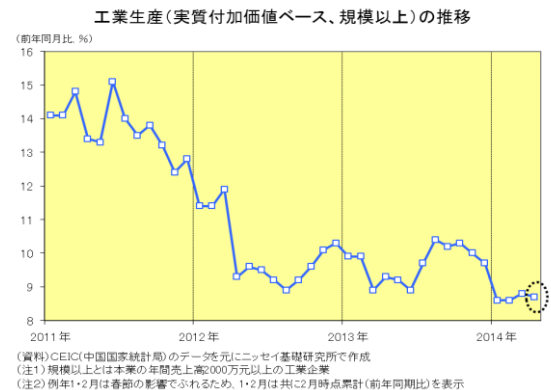
TEL:03-3512-1834 E-mail: mio@nli-research.co.jp

- 中国では、税関総署が5月8日に貿易統計を発表、国家统计局が9日に消費者物価を、13日に工業生産、小売売上高、固定資産投資を発表し、4月の主要な経済指標が出揃った。
- 4月の経済指標を総括すると、供給面では工業生産に改善の兆しがあるものの、支出面では輸出が少し改善した程度で、消費は横ばい程度に留まり、投資の減速傾向も続いていることから、景気が失速する懸念はやや薄れたものの、上向きとの確証は得られていない。中国政府は順次対策を打ち出してきたことから、5月の経済指標に反映してくるのか要注目である。
- また、4月の消費者物価は前年同月比1.8%上昇と3月の上昇率を0.6ポイント下回った。

### [ 工業生産 ]

中国国家統計局が発表した4月の工業生産(実質付加価値ベース、規模以上)は前年同月比8.7%増となった。1-2月期が同8.6%増、3月が同8.8%増だったことから、8%台後半での一進一退が続いている。(図表-1)。但し、前月比(季節調整後)で見ると、1月が0.59%増、2月が0.61%増だったのに対して、3月は0.80%増、4月も0.82%増と年率換算すれば10%程度の高い伸びが2ヵ月続いたことから、足元の工業生産には改善の兆しがあると思われる。

(図表-1)

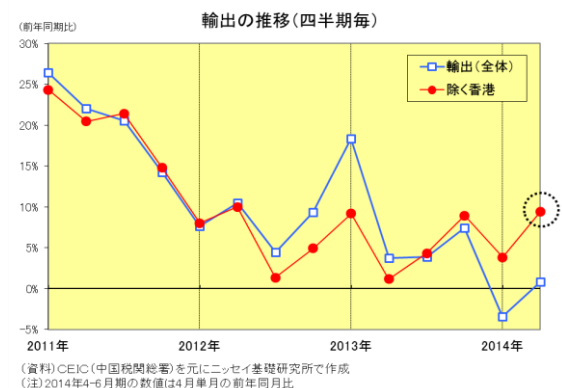


### [ 輸出・消費・投資の3本柱 ]

輸出・消費・投資の3つの代表指標も出揃った。

4月の輸出は前年同月比0.9%増と1-3月期の前年同期比3.4%減からプラスに転じた。輸出の伸びが0.9%と低めなのは、昨年の同時期に問題となった“輸出水増し”の反動減で、約17%を占める香港向けが3割減になったのが主因で、米国向けと欧州向けはともに2桁増であり、香港向けを除いた輸出は前年同月比9.4%増と上向きにきていることから、実際の輸出は4月に少し改善したと思われる(図表-2)。

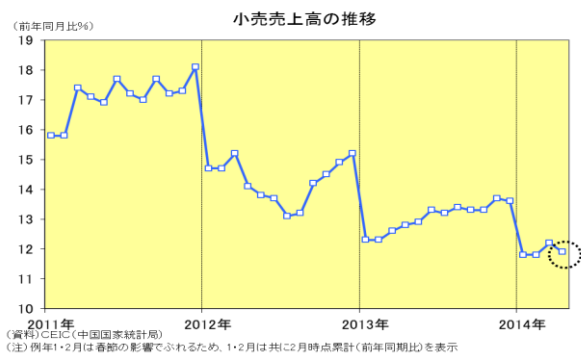
(図表-2)



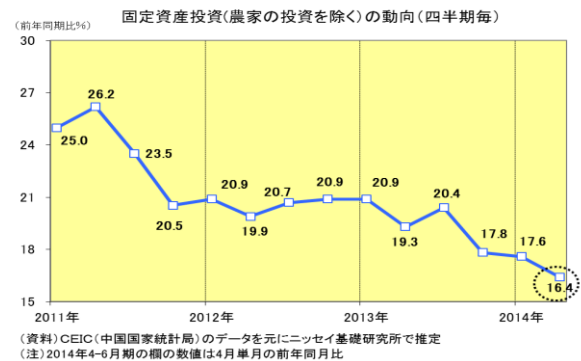
消費の代表指標である小売売上高は、4月に前年同月比11.9%増と3月の同12.2%増を0.3ポイント下回った(図表-3)。前月比(季節調整後)も0.83%増と3月の1.24%増を下回っている。但し、価格要因を除いた実質では前年同月比10.9%増と3月の同10.8%増を若干上回っており、消費は横ばい程度の伸びだったと見るのが妥当だろう。

投資の代表指標である固定資産投資(除く農家の投資)は、1-4月期累計で前年同期比17.3%増と1-3月期累計の同17.6%増を0.3ポイント下回った。4月単月の伸びは公表されていないが当研究所の推定では前年同月比16.4%増と見られる(図表-4)。前月比(季節調整後)も、1月の1.30%増、2月の1.29%増、3月の1.22%増に続いて、4月は1.17%増と徐々に減速してきており、投資の減速傾向は続いている。

(図表-3)



(図表-4)



[ 消費者物価 ]

また、4月の消費者物価は前年同月比1.8%上昇と3月を0.6ポイント下回り、今年の抑制目標である3.5%前後を大きく下回っている。食品価格が生鮮野菜の大幅下落を受けて3月の4.1%上昇から2.3%上昇へ落ちたことが主因である。また、高止まりしていたサービス価格の上昇率も徐々に鈍化してきており、インフレ懸念は遠退いたといえるだろう(図表-5)。

(図表-5)

年	消費者物価							消費品(モノ)	サービス	
	食品	うち生鮮野菜	衣類	家庭用品	交通通信	娯楽教育文化用品	サービス			
2013年1月	2.0	2.9	2.6	2.5	1.5	▲0.3	0.5	2.9	2.0	2.2
2013年2月	3.2	6.0	10.0	2.1	1.6	0.2	2.0	2.8	3.3	3.1
2013年3月	2.1	2.7	▲10.3	2.3	1.6	▲0.3	1.7	2.9	1.7	3.1
2013年4月	2.4	4.0	5.9	2.5	1.6	▲1.1	1.5	2.9	2.2	2.9
2013年5月	2.1	3.2	▲1.9	2.5	1.6	▲1.2	1.3	3.0	1.8	2.8
2013年6月	2.7	4.9	9.7	2.3	1.5	▲0.7	1.4	3.1	2.6	2.7
2013年7月	2.7	5.0	11.8	2.2	1.4	▲0.1	1.3	2.8	2.7	2.7
2013年8月	2.6	4.7	5.2	2.2	1.4	0.0	1.2	2.6	2.5	2.7
2013年9月	3.1	6.1	18.9	2.3	1.4	▲0.2	1.9	2.6	3.1	2.9
2013年10月	3.2	6.5	31.5	2.4	1.5	▲0.6	2.5	2.6	3.2	3.1
2013年11月	3.0	5.9	22.3	2.0	1.3	▲0.5	2.8	2.6	2.9	3.3
2013年12月	2.5	4.1	2.6	2.1	1.4	▲0.1	2.9	2.8	2.2	3.3
2014年1月	2.5	3.7	2.1	1.9	1.5	0.2	3.3	2.8	2.0	3.7
2014年2月	2.0	2.7	3.3	2.2	1.3	▲0.4	2.1	2.8	1.6	2.9
2014年3月	2.4	4.1	12.9	2.3	1.2	▲0.4	2.1	2.5	2.2	2.8
2014年4月	1.8	2.3	▲7.9	2.3	1.2	0.1	2.0	2.4	1.4	2.7

[ 今後の注目点 ]

以上、4月の経済指標を総括すると、供給面では工業生産に改善の兆しがあるものの、支出面では輸出が少し改善した程度で、消費は横ばい程度に留まり、投資の減速傾向も続いていることから、景気が失速する懸念はやや薄れたものの、景気が上向くとの確証は得られていないのが現状と思われる。中国政府は、2月中旬以降、短期金利の低下を容認し、人民元高に歯止めをかけ、鉄道建設目標を上方修正するなど小規模な需要喚起策も順次打ち出してきていることから、今後の経済指標に反映してくるのか、そうでないのか、5月の経済指標も要注目である。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。